

防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業成果報告書

学校名：岩手県立一戸高等学校

I 事業の概要（地域の実情含む）

本校では「いわての復興教育」に掲げる3つの教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」を本校の教育活動に位置づけ、1年次は「いきる」、2年次は「かかわる」、3年次は「そなえる」に関連付け、「生きる力」を育む活動に取り組んだ。

II 取組の概要

(1) 防災学習「いきる」（教職員数7名、生徒71名）

「いきる」に関連付け、1年次が「産業社会と人間の中で、実際に被災地である田野畠村を訪問し、住民の方々に発災時や現在の状況、再生への道のりについて教えていただいた。また、三陸鉄道に乗車し、被災地の方々の暮らしを体験した。

(2) 「かかわる」に関連づけた「野田村復興支援交流のつどい」実施（教職員数8名、生徒43名）

ア 事前学習

平成23年度から本校で取り組んでいる「復興交流支援活動」についての学習会を開催し、被災地の交流活動に向けて意識を高めた。

イ 「野田村復興支援交流のつどい」実施内容

総合学科高校である本校の各系列の特長をいかし、学習の成果を総合化するために、主に2年次の各系列の代表で構成された総合学科実行委員と本校独自の創作舞踊を行う「華一」同好会がこの活動に取り組んだ。準備については、各系列の生徒が「総合的な学習の時間」や専門科目の授業で行った。

（ア）人文・自然系列「総合案内、マスコミ対応」

（イ）家庭選択生徒「プチカフェ」

（ウ）農業選択生徒「石窯ピザ手作りづくり体験」

（エ）音楽選択生徒「ミニコンサート」

（オ）情報ビジネス系列「フェアトレード商品販売」

（カ）介護・福祉系列「足浴マッサージ体験」

（キ）美術、書道選択生徒「看板やチラシづくり」

（ク）「華一」同好会による演舞披露

(3) 平成28年度防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業「学校防災アドバイザー派遣事業」実施（教職員数10名、3年次生徒120名）

「そなえる」に関連付け、平成28年度防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業「学校防災アドバイザー派遣事業」を活用し、3年次を対象とした学校防災アドバイザーによる、「講話・演

習を通じた防災意識についての向上（地震、津波、火山、気象防災、災害時の避難等）についての講演会を実施した。

(4) 成果発表

今年度、取り組んだ「いきる」「かかわる」「そなえる」に関する活動についての成果を、本校総合学科全体発表会で報告した。

III 取組の成果と課題

(1) 成果

ア 防災学習（いきる）

「津波の怖さ」、「災害が起こったときの判断力」、「震災を風化させないこと」、「命の大切さ」などについて学ぶことができた。

イ 野田村復興支援交流のつどい（かかわる）

（ア）各系列の特色を総合的に活かし、復興交流活動に取り組み、コミュニケーション能力を高めるとともに、他者を理解し、自身を見つめ直すよい機会となった。

（イ）自ら専門的な知識や技術を身につけ、課題を解決しようとする態度を養うことができた。

（ウ）野田村の方々から感謝の手紙を多くいただき、生徒たちは野田村の方々の生き抜くを感じ、支援の心や学びの意欲を高めるとともに、「人の絆の大切さ」や「地域づくり」、「社会参画」の重要性を学ぶことができた。

ウ 平成28年度防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業「学校防災アドバイザー派遣事業」（そなえる）

自然災害のメカニズムについて深く知り、災害に対する理解を深め、災害にそなえる必要性を学んだ。

(2) 課題

いわての復興教育では本県の復興、発展を支える人材を育成するために「いきる」「かかわる」「そなえる」の3つの教育的価値を掲げている。その中で現在、多様化する防災教育を取り入れながら、復興教育を推進するためにはカリキュラムの組み立てが重要であり、特に地域密着型の学校経営が必要不可欠であると考える。また、3年計画での取り組みであることから、職員間の連携も必要である。

1 防災学習「いきる」写真



田野畠村の方から発災時の状況について学ぶ



農業選択生徒「石窯ピザ手作りづくり体験」



三陸鉄道に乗車し、被災地の方々の生活を知る



音楽選択生徒「ミニコンサート」

2 野田村復興支援交流のつどい「かかわる」



人文・自然系列「総合案内、マスコミ対応」



介護・福祉系列「足浴マッサージ体験」



情報ビジネス系列「フェアトレード商品販売」



野田村の方々からの多くの感謝の手紙

3 平成 28 年度防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業「学校防災アドバイザー派遣事業」「そなえる」



家庭選択生徒「プチカフェ」



講演会の様子